

2022年度 第4回

小6 全国一貫模試

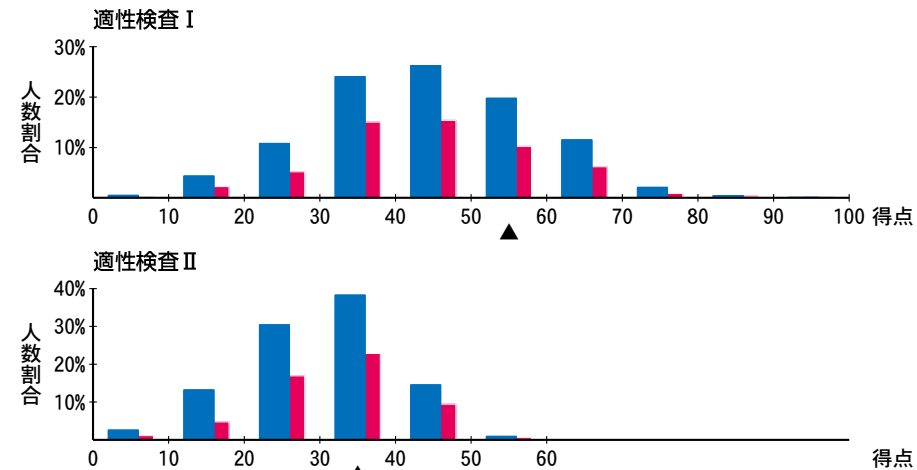
個人成績表

会場	性別	受検番号	氏名
クロノクリエイト	男子	12345678	黒野 太郎

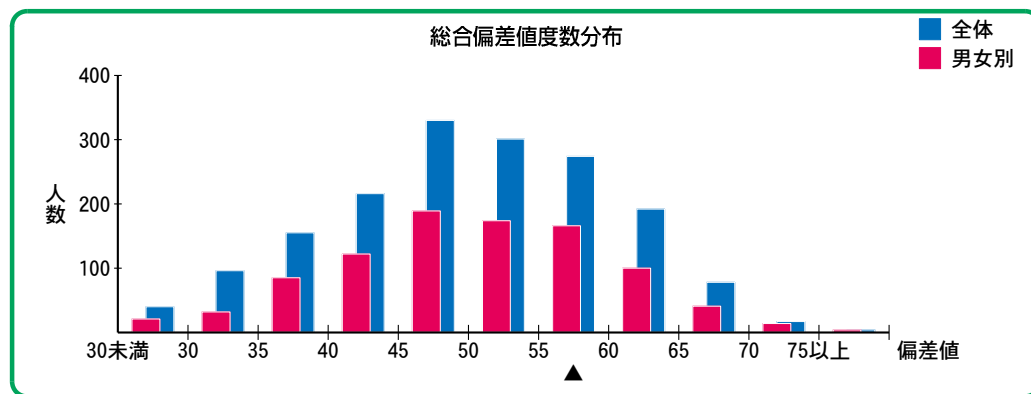
総合成績

	得点	偏差値	平均点	全体順位	男女別順位
適性検査Ⅰ	55点/100	58.1	43.4点	361位/1703	182位/948
適性検査Ⅱ	37点/60	57.6	29.8点	387位/1703	265位/948
総 合	92点/160	59.1	73.2点	322位/1703	179位/948

適性検査別成績

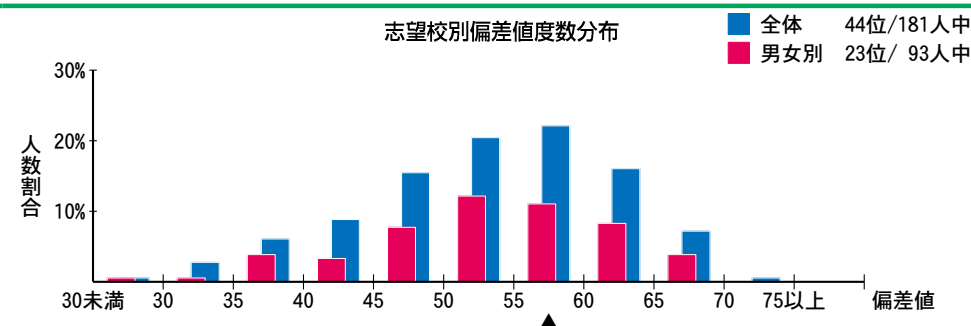


総合偏差値度数分布



志望校別成績

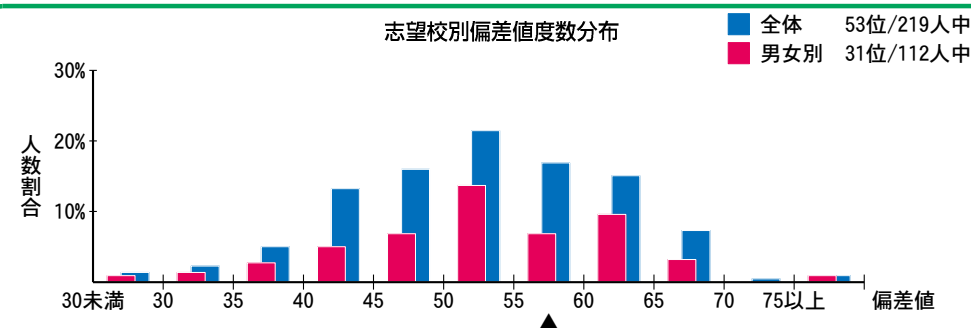
福岡県立宗像



偏差値推移

	1回	2回	3回	4回
適性検査Ⅰ	54.9	44.0	41.2	58.1
適性検査Ⅱ	46.5	47.9	54.0	57.9
総 合	51.0	44.7	45.3	59.2

福岡県立嘉穂高校附属



適性検査Ⅰ

1

【問題1】

時間かたつにつれくさえていす虫などがあいてきて律生面でもくさない問題。そしてくさえていたらもうくさってくさあやくなり地震や台風が来た時に被害がふえるから。

【問題2】

(1) ふえている
(2) 約 2.2 倍 (3) E

【問題3】

A ☒ B ☒ C ☒ D ☒ E ☒ F ☒ G ☒ H ☒ I ☒ J ☒ K ☒ L ☒ M ☒ N ☒ O ☒ P ☒ Q ☒ R ☒ S ☒ T ☒ U ☒ V ☒ W ☒ X ☒ Y ☒ Z ☒

2

【問題1】

地方では半分以上がオンライン教育を受けられない。

【問題2】 資料1からオンライン教育の受講率に関する問題点を考えます。

最初は遠隔かほるといったが後其月になていくにつれ併用かふえていっている。

【問題3】

う、キ、エ

3

【問題1】

① 4 ② 1 ③ 5

【問題2】

④ 21 ⑤ 3

【問題3】

21 個

4

【問題1】

3日時間重力を回ればカルシウムが減少することはない。 5 実験から骨密度と運動の関係を考えます。

【問題2】

スポーツ E
理由 筋肉ではなく関節の重さだから。
会話文から骨密度を上げることに関係がないスポーツを考えます。

【問題3】

公立中高一貫校対策 一貫模試

適性検査Ⅰ	内 容	得 点	平均点
1	問題1 日本の歴史的イベントの時系列 問題2 税が米から現金に変わった理由 問題3 キャッシュレス化への不安の説明	0点/5 10点/10 10点/10	0.6点 3.1点 8.2点
2	問題1 二酸化炭素排出抑制率の計算 問題2 牛肉とバーチャルウォーター 問題3 「過剰除去」の意味の説明	8点/8 6点/9 0点/8	2.2点 5.2点 3.9点

	内 容	得 点	平均点
3	問題1 一本の紐から作れる正方形の計算 問題2 辺の長さの比と正六角形の面積 問題3 辺の長さの比と正八角形の面積	10点/10 0点/10 5点/5	8.8点 1.0点 2.2点
4	問題1 温度による体積変化 問題2 加熱されたバイメタルの変化 問題3 バイメタル温度計に使う金属	5点/13 6点/6 0点/6	3.0点 3.7点 1.5点

よ思めうし的を本文
いいてうよにまもに
で出くう。ととう沿
しれた気相め少々
しよた持相め少々
う書ののち手てした
くかでがみ具体
とをほどま体験

問題四

問題三

問題二

「問題」

1

採点ポイント	内 容	得 点
問題4①	制限字数が守られているか	9点/10
問題4②	段落構成が適切かどうか	6点/8
問題4③	具体的な体験が書かれているか	0点/8
問題4④	自分の考えが書かれているか	4点/5
問題4⑤	全体のまとまり・減点項目	1点/5

出題内容のアドバイス

適性検査Ⅰ

1 水の三態(液体・固体・気体)と、周りの環境の違いについて、会話文とグラフや経験から考える問題です。

問題1 液体の水が蒸発して気体の水蒸気になるときに熱を吸い取る現象を、経験等もふまえて考えたかどうかです。

問題2 1気圧のときの氷と水の境目の温度0℃、水と水蒸気の境目の温度100℃に気づけたかどうかです。

問題3 (1)は水の状態のグラフをしっかりと読めたかどうかです。つまり、標高の高い場所では気圧が低くなるので、水の沸騰する温度が100℃よりも低くなることに気づき、食材によく火が通らないことを、うまく記述できたかどうかです。(2)は(1)の逆で、圧力鍋は、圧力を高めることができるので水の沸騰する温度を上げられることをうまく記述できたかどうかです。

2 いろいろな金属の体積と重さの関係を、表とグラフと会話文から考えたり、アルキメデスの実験結果を推測できたかどうかをみる問題です。

問題1 密度(1cm³あたりの重さ)の表を使って計算して、どの金属にあたるのかを、グラフの点(●)から探していく問題です。正しい計算ができたかとグラフを読めたかどうかを見る問題です。

問題2 同じ金属であれば、密度も同じになるので、正比例のグラフとなり、原点から一直線上にある点は、すべて同じ金属であることがわかります。

問題3 異なる金属を混ぜると、密度が変わるので、同じ重さだと体積が違ってきます。つまり、この問題では、金より密度の小さい銀を混ぜたので、体積が大きくなることに気づけたかどうかです。

問題4 問題3の続きで、偽物の王冠を見つける他の方法について考える問題ですが、ここでは「浮力」を使っています。体積が大きいほど「浮力」が大きくなることがわかれば、王冠の方が体積が大きくなるので、「浮力」が大きくなり、浮いて上がることがわかります。

3 上皿てんびんを使って、異なる重さのおもりを見つけたたり、複数の分銅の和や差を使うことで量ることのできる重さの数を調べる問題です。

問題1 (1)は、おもりが3個なので、つり合えば残りの1個が、傾けば下がった方が重いおもりとわかります。(2)は、おもりが5個なので、2個ずつのせてつり合えば、残った1個が重いおもり、1回目に傾いた場合は、下がった方に重いおもりがあることがわか

るので、その2個を左右に1個ずつのせて、重いおもりを見つければよいことになります。

問題2 下がっている方に重い6gのおもりがあることがわかるので、上がっているおもりはすべて5gになることに気づけたかどうかです。このときに図の中に、5gとわかったおもりに「5」と書き込むなどをして正確に解き進めていきます。

問題3 最低で1gで、最大で12g(=1+4+7)とわかります。あとは2個ずつの和は簡単ですが、差を使った重さを見落とすことなく考えられたかどうかです。

問題4 和が13gであることから、3つの数の和が13になる組み合わせをすべて考えて、1組ずつ手早く検証していくことができたかどうかです。

4 となり合う数の和を使って、1から連続する数を作る問題です。

問題1 1と2を使えば、3(=1+2)が作れるので、4以上の数が入ることがわかったかどうかです。

問題2 1以外に、2も必ず必要になります。2の入りが1のとなりか、となり合わない場所かの2通りあることに気づけたかどうかです。

問題3 (1)の最大の数は、全部で何通りの数の組み合わせになるかを考える問題です。(2)は、問題2と同様にして、2の入る場所を分けて考えることができたかどうかです。

適性検査Ⅱ

1 江戸時代の貨幣を用いたテーマです。

問題1 この問題は江戸時代の貨幣価値を現代の貨幣価値に置き換える問題です。聞き慣れない単位が出てくるので、単位合わせを間違えないように順を追って求めていく力が問われています。

問題2 江戸時代の日本と外国における金銀交換比率に関する問題です。聞いたことがなくても会話文がヒントになっているので、その内容を理解し、単純な数字に置き換えて考えてみるとわかりやすかったはずです。

問題3 貨幣価値と物価に関する問題です。考え方は円安・円高に近いものがあります。この考え方に落とし込めば容易に解けますが、たとえ知らなくても、資料でガイドがあるので、参考にすれば答えは出せるはずです。

2 パンフレット作成をもとにした、推理系の問題です。

問題1 資料内の条件に沿って、順を追って、パンフレットの項目のページ数を当てる問題です。頭の中で考えるのではなく、実際に手を動かし、表にしてまとめるなど、可視

化することが大切です。

問題2 問題1と同様に資料内の条件を整理する問題です。落ち着いて項目を整理できたかどうかです。

問題3 適性検査ではよく出るテーマです。新聞のページの仕組みの応用問題です。向かい合うページの和が一定になっていることに気がつくかどうか**鍵**です。

3 この問題のテーマは記憶についてです。公立中高一貫の入試ではあまり見ないテーマですが、初見のテーマでも資料を使って徐々に明らかになっていく形式は、入試でよくある手法です。

問題1 資料を利用して計算する問題です。適性検査ではよくある問題です。条件の読み落としに気をつけ、どのような計算が求められているのかを把握するようにしましょう。

問題2 (1)は正誤判定です。前半3つの選択肢は、データをもとにした正誤判定です。後半4つの選択肢は文章資料との正誤判定です。それぞれ、設問の選択肢の内容と、その該当箇所と照らし合わせる作業が必要です。(2)は資料の情報を読み取る問題です。文章をしっかりと読むことができるかどうかです。

問題3 この問題では、資料の情報からわかることを読み取る問題や、120字記述をメインに出題しました。はじめに筆者が大切だと言っている場所を見つけ、ただ抜き出すのではなく、自分の言葉で要約できるようにしましょう。

適性検査Ⅲ

文章1は、作家、翻訳家として活躍している著者による、さまざまな文化から見られる多様な美しさについて書かれた随筆文です。今回の抜粋部分では、主に人が無意識のうちにもっている「パターン認識」を説明し、そこから自由になって世界の新たな見方を発見する大切さが述べられています。

文章2は、サイエンスライターとして活躍している著者によるエッセイで、様々な事例や比喩を挙げながら、私たちの誰もがもっている「仮説」をお互いに理解し合い、物事を柔軟に考えていく大切さが述べられています。比較的平易な文体で著者の主張も明確ですが、筆者特有の話し言葉や比喩表現に注意して、素早く正確に文意を読み取ることが大切です。

公立一貫入試では、限られた時間内で文章の意味を正確に読み取り、重要なポイントを素早く見抜いて頭の中で整理する要約力が非常に大切になってきます。普段の学習でも、与えられた文章を漫然と眺めるのではなく、大切なところに線を引いたりチェック

をしたり工夫をし、「筆者は結局何を伝えたいのだろうか?」、「その根拠は何だろうか?」など、筋道立てて読むことを意識しましょう。

また、今回のように二つの課題文が出題される場合、それらに共通する主張やテーマを考えながら読むことも大切です。今回は「自分の考えやものの見方を絶対視せず、相対化させることの大切さ」が共通する内容ですので、解答文の作成にはそうしたことに意識を向けていきましょう。

問題1 本文中の言葉を参考に、的確な説明を考える記述問題です。わざわざ「文章中の言葉を使って」と書いてあるということは、解答文を作るにあたってかなり活かせる部分が本文中にあるということです。「自分勝手な言葉」を考えるのではなく、あくまで本文中の筆者の言葉の中にヒントを探す意識が大切です。今回は中略の直後の内容を、文法的に「ねじれ」が生じないように、また文末にも注意してまとめます。

問題2 空所補充の問題です。このような問題では、とすると「何となく」の感覚でそれらしい表現を書いてしまいがちですが、文脈をていねいに追ってヒントとなる言葉を探し、的確な表現を書く必要があります。今回は、空欄の直後に解答に活かせる表現が2か所あるので、それを参考にして書いていきます。少なくとも、空欄が含まれている一文全体に視野を広げ、文脈を読み取るよう意識しましょう。

問題3 問題1と同じく、本文中の言葉を参考に傍線部の理由となる的確な説明を考える記述問題です。今回は「だから」という接続詞に注意し、傍線部の直前を活かせば解答例のような文を作ることができます。限られた時間内で的確な解答文を作るために、優先順位の高い言葉を素早く見抜けるよう意識して練習していきましょう。

問題4 二つの課題文の内容をまとめたうえで、自分の考えを体験も交えてまとめる作文問題です。第二段落以降には「自分自身の今後の学びのためにこれからどんなことを心がけていきたいか」という自分の考えを書きますが、その際課題文で述べられていたこととは無関係な内容を書いてしまうと高得点は期待できません。たとえば解答例のように、「積極的にあらゆる他人と交流して物事を多角的に考えていきたい」という方向性で書くこともできます。あるいは、「自分が何気なく抱いている先入観を疑っていきたい」、「自分とは異なる考えをもった人を理解するよう努めていきたい」といった方向性で書くこともできます。いずれにせよ、本文と関連する内容を的確に考えて書く必要があります。試験本番の限られた時間ではありますが、解答用紙に清書する前に「文章の流れ」を余白に図示化する、メモをとるなどして、はじめからおわりまで一貫した作文ができるよう自分なりの工夫を考えてみてください。

